

第2期八街市子ども・子育て支援事業計画（案）

に対する意見と市の考え方

対応項目

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
- B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
- C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
- D：案に意見の考え方を反映・修正しなかったもの
- E：その他の意見

番号	分類	意見の要旨	対応	市の考え方
1	市の政策に関すること	<p>市の最優先課題は、急激な人口減少を食い止める事で、あらゆる政策を駆使して実行すること。</p> <hr/> <p>特に、合計特殊出生率を全国平均（H30年度：1.42）並みに上げる事、その為には産院・産科院を誘致すること。</p> <hr/> <p>八街市総合計画 2015 後期基本計画（第二次八街市まち・ひと・しごと創生総合計画） 基本目標1「結婚・出産・子育ての希望をかなえ、全世代活躍のまちづくり」の中で合計特殊出生率については、第一次では KPI 指標、H26 年度：1.12⇒H31 年度：1.29としていたが、結果として H30 年度：1.01と悪化しています。（本支援事業計画にも関わりが深いと考えます）。</p> <p>★原因は、何故なのか？ R2 年度より新たに「子育て包括支援センター」等、いろいろ利用者支援事業を行ないますが、最重要（一丁目一番地）課題は、市内で分娩出来る病院がないことで、心理的に子供を諦める方も多くいることと思います。H23 年度から特殊出生率が急減していますが、ひきたクリニック（産婦人科）が分娩産院出来なくなったこと（H25 年）にほぼ符合しています。</p>	D	<p>本市の上位計画である「八街市総合計画 2015 後期基本計画」及び「八街市まち・ひと・しごと創生地方人口ビジョン」において、2040 年の合計特殊出生率を 2.07 を目標に各種施策に取り組むこととしております。なお、後期基本計画期間においては、具体的な数値目標を設定しておりませんが、人口ビジョンの目標に向けて、第2次総合戦略における基本目標の一つに「結婚・出産・子育ての希望をかなえ、全世代活躍のまちづくり」を位置づけ、若い世代への支援を重点施策として効果的かつ効率的に推進することとしております。</p> <p>なお、第2期八街市子ども・子育て支援事業計画においては、子育て世代の支援策として、児童館の整備や子育て包括支援センターの開設などにより、情報発信や育児等での相談、保護者同士の交流の場など子育てがしやすい環境を整え、また、出産後の支援として、保育園や認定こども園・小規模保育事業所の整備など、子育て世代に対する具体的な子育て支援事業を計画するものです。</p>

	<p>本会の提言は、この状況に対処する為、危機感を持って、八街新総合病院を市民病院の核にして、分娩産院も対応出来るよう、不断の努力を持って働き掛けをしてください。市民も少子化対策として必要ならば一部の経費負担にも理解が得られると考えます。(女性が妊活で安心感を与えることが重要)</p> <p>★人口7万人のベッドタウンに分娩産院がないことは、恥ずかしいことです。</p> <p>※今回の総合計画では、合計特殊出生率 KPI 指標値は数値でなく右肩上がりとなっていますが、2024年の数値目標の設定をしてください。</p> <p><参考> 以前に少子化対策で確認した所、産院・産科を誘致することは、本市の少子化問題を解決していくうえで、重要な要素であることを十分認識している。出産する方の支援策として周辺市町の産院・産科との連携体制の構築と安心して妊娠・出産が出来る相談体制の充実を図るとともに、産院・産科の誘致に努力して参りたいと考えています。 H29,8.30 北村市長より回答</p>		
--	---	--	--